

## この湿原を未来の子どもたちへ

北海道浜中町  
特定非営利活動法人霧多布湿原ナシヨナルトラスト

特定非営利活動法人霧多布湿原ナシヨナルトラスト 小野 明奈



北海道の東部に位置する浜中町は、漁業と酪農の町です。そのため自然環境は、町の産業や生活にとって大切な基盤となっています。浜中町にある霧多布(きりたつぷ)湿原は、約3168ヘクタールと広大な面積を有しており一部が大正11年(1933年)に天然記念物に指定されました。ワタスゲやエゾカンゾウが咲く国内最大級の「花の湿原」として親しまれ、また特別記念物のタンチョウをはじめ、エゾシカやキタキツネなど多くの生き物が生息しています。

NPO法人霧多布湿原ナシヨナルトラストは、昭和61年8月に湿原を守るための集まりではなく、湿原が好きな者の集まりで「霧多布湿原ファンクラブ」を発足しました。最初は、湿原周辺の民有地30ヘクタール

ルを借り上げ、保全活動を開始しました。この頃は、地主さんから借りるという形でしたが、買い上げてほしいという話を頂いたのをきっかけに平成12年にNPO法人格を取得し霧多布湿原ナシヨナルトラストを立ち上げ、活動の3本柱を掲げました。

### 霧多布湿原ナシヨナルトラスト 活動の3本柱

#### 1. 霧多布湿原を保全する活動

霧多布湿原の民有地約1200ヘクタールのうち、開発の可能性が高い海沿い道路際の約200ヘクタールをはじめ、タンチョウの営巣地にある民有地の保全を図るため、全国に呼びかけナシヨナルトラスト運動による用地の買い取りをする活動で

す。ちなみにナシヨナルトラスト運動とは、19世紀末イギリスで始まった市民運動で国民自身の手で大切な自然環境という資産を寄付や買い取りなどで入手し、守っていくという運動のことです。平成21年には、霧多布湿原50万坪買い取りプロジェクトを開始し寄付金を募りました。約2か月間で1200万円達成し、最終的には、1827万円の寄付金が寄せられプロジェクトは大成に終わりました。その後もナシヨナルトラスト運動を続け平成29年9月末現在での霧多布湿原保全面積は、950ヘクタールとなっています。

#### 2. 地域の自然や壊れた自然を再生する

霧多布湿原や周辺の森林、海岸線といった自然環境の調査や埋め立てられた湿原を



## エコツアー、環境教育、 調査・研究への取り組み

元に戻す湿原の復元実験の他、湿原周辺の森づくりに取り組んでいます。湿原の復元実験は、昆布の干場として埋め立てられた場所の土をはぎ取り、周囲から植物を移植作業などして湿原の植生が戻る経過を見るというものです。今も順調に成長しており徐々に湿原環境が回復していくと期待されています。

### 3. 「霧多布湿原のファンづくり」

自然を大切にする最初の一步は「そこを知る・好きになる」ことです。そのため環境教育や交流、エコツアーなどを通して霧多布湿原のファンづくり活動をしています。

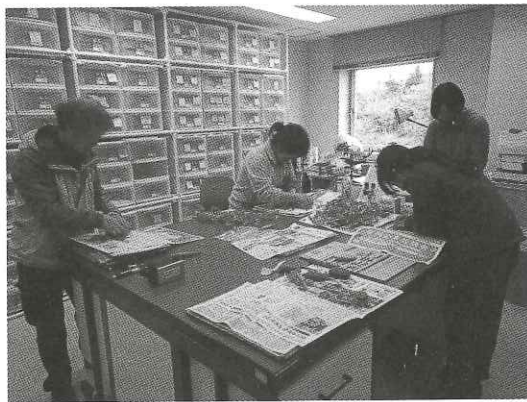


地元のカヌーガイドを招き、湿原の中を探検

平成5年5月、霧多布湿原を見下ろす高台に公共施設霧多布湿原センターが建設され、平成17年4月より霧多布湿原ナショナルトラストが指定管理者として霧多布湿原のファンづくりの拠点として運営しています。

主な取り組みとしてエコツアー、環境教育、調査・研究があります。

エコツアーとは、霧多布湿原がもつ豊かさや価値を多くの人々に伝えながら、ルールをもって案内をするツアーです。湿原ト



スタッフと一緒に野外で植物を採集し、ボランティアと標本づくりを行う

レッキングは、一日20組限定として長靴を履いて森や湿原を探索します。また、マウンテンバイクで浜辺や湿原を走ってみたり、教育旅行の行程に組み入れたりと霧多布を存分に体感できるように、自然を長く大切にしながら楽しむ案内をしています。

環境教育とは、森・川・湿原・海といった様々なフィールドを活かし地域の自然や人とつながった体験学習・総合学習プログラムです。プログラムの一つにきりたっぷ子ども自然クラブという小学生対象の自然体験活動があります。自然の中で遊ぶことを通してたくましい子に育ってほしいという想いから2006年にクラブを結成しま



支援してくださっている企業の方々や地元の高校生がボランティアとして参加し、木道整備を行っている



した。毎月1回から2回実施しアウトドアアクッキングをしたりケンボッキ島という無人島に上陸をして探検したり、無人島清掃などの活動を行っています。

調査・研究の一つにハーバリウム・霧多布といった活動があります。

毎月一回ボランティアを募り湿原や森を歩きながら植物を採取し、植物標本をつくるといった活動です。湿原には、約300種、町内全域では700種の植物が見つかっていましたが、植物が標本として保管されていませんでした。写真や絵とは比べ物にならないほどの情報を持っており、生物的・地理的・歴史的証拠として、遺伝子情報の塊として、また研究の基盤や同定の参考資料としても貴重です。

平成16年には、国税庁からNPO支援税制の対象である「認定NPO法人」として認

特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 活動年表

昭和61年	8月	「霧多布湿原ファンクラブ」発足 湿原周辺民有地仲の浜地区30ヘクタールの借り上げ、保全を開始
	10月	会員数1,000人突破
	11月	ボランティアによる事務所建設
昭和62年	1月	会員数2,000人突破
	7月	保全地域を示す標識と木柵を設置
	9月	天皇陛下ご夫妻(当時皇太子殿下)が霧多布湿原を視察、拝謁
昭和63年	6月	霧多布湿原の中を歩けるように600メートルの木道を設置
	7月	霧多布湿原ガイドマップ作成
平成元年	2月	会員数3,000人突破
平成4年	5月	湿原民有地琵琶瀬地区15ヘクタールを借り上げ「奥琵琶瀬野鳥公園」として整備 「第10回朝日森林文化賞」受賞
平成5年	5月	霧多布湿原センターが完成 奥琵琶瀬野鳥公園に木道設置
	6月	霧多布湿原がラムサール条約に登録
	12月	「北海道地域づくり優良事例」北海道知事賞受賞
平成6年	8月	会員数4,000人突破 絵本「やちぼうずとヤチマナコ」発行
平成8年	8月	橋本湿原公園に木道と観察デッキを設置
平成9年	2月	「北海道地域文化選奨」受賞
	10月	霧多布湿原後背地の森に散策路ウッドチップトレイル整備
平成10年	1月	湿原スキー横断
平成11年	9月	霧多布ファンクラブ解散
平成12年	1月	NPO法人「霧多布湿原トラスト」を設立 ※霧多布湿原ファンクラブの活動を引き継ぐ
	7月	霧多布湿原のナショナルトラスト運動開始 霧多布湿原クリーンアップ事業開始 霧多布湿原トラストへの支援を目的としたバードソン2000開催
	9月	活動拠点となる霧多布湿原トラストインフォメーションセンターオープン
平成13年	4-5月	地域セミナー開催
	7-9月	湿原復元調査開始、実験地廃屋撤去作業
平成14年	3月	霧多布湿原テーマ曲完成
	12月	「2002年北のくらし大賞」受賞 「霧多布湿原ファンクラブ東京支部」誕生 セブンイレブンみどりの基金とパートナーシップ協定を締結
平成15年	6月	釧路管内NPOフォーラム開催 買い上げ保全用地への看板設置
平成16年	6月	北海道第1号認定NPO法人となる

定されました。

平成28年11月には閉校した小学校に事務所を移転し校舎を会場に設立30周年記念式典を開催しました。当日は、会員の皆様、支援してくださっている企業の皆様、町長をはじめとする地元関係機関の皆様など約100人が出席してくださいました。霧多布湿原ファンクラブ発足から30年が経ち、最大4600人いた会員は、高齢化などで現在2000人を割っており私たちは、新たな個人会員や支援企業への呼びかけなどの活動をしていきたいと思えます。また、新しいこと、面白いことにチャレンジしていきたいと考えています。浜中町を舞台にし「この湿原を未来の子どもたちへ」をミッションに50年、100年と活動を続けていきたいと思えます。

特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 活動年表

平成16年10月	湿原民有地琵琶瀬地区15ヘクタール買い上げ 「奥琵琶瀬野鳥公園」を新たに整備
平成17年 4月	指定管理者制度により霧多布湿原センターの運営開始 環境省主催第1回エコツーリズム大賞特別賞受賞
5月	「霧多布湿原ファンクラブ北海道」誕生
11月	ラムサール条約第9回締約国会議参加（アフリカ ウガンダ）
平成18年 1月	地域づくり総務大臣賞受賞
7月	「霧多布湿原ファンクラブ鹿児島」誕生
10月	霧多布湿原センター評価検討会議開催
12月	環境省主催第2回エコツーリズム大賞優秀賞受賞
平成19年 6月	東京多摩動物公園と事業に関するパートナーシップ協定締結
11月	環境省主催第3回エコツーリズム大賞 大賞受賞 国土交通省主催「全国地域づくり推進協議会会長賞」受賞 仲の浜木道700メートル修復完成・奥琵琶瀬木道テラス拡張（株）ハーゲンダッツ）
平成20年 1月	円山動物園と生息地の保護、普及啓発を目的としたパートナーシップ協定締結
2月	東京ファンクラブ結成5周年記念式典開催
5月	オーストラリアからのボランティアツアー受け入れ
10月	浜中町と霧多布湿原景観保全協定締結
平成21年2・4月	霧多布湿原50万坪買い取りプロジェクト実施
7・9月	霧多布湿原50万坪買い取りプロジェクト達成記念ツアー開催
平成22年 4月	指定管理者として霧多布湿原センターの運営を更新される
6月	認定NPOとして平成27年まで更新認定される
平成23年 7月	団体名称を「特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト」へ変更 太陽光パネルがファンクラブ東京と浜中町農協より協同で寄付される
10月	第2回いきものにぎわい市民活動大賞「損保ジャパン環境大臣賞」受賞
平成24年 4月	海と湿原のつながり調査プロジェクト開始
12月	ファンクラブ東京主催の「霧多布湿原ファンクラブ全国交流会」が開催される
平成25年8・9月	霧多布湿原のナショナルトラスト30年の歩みとファンクラブ東京10周年記念展示開催
平成26年 5月	琵琶瀬地区エゾシカ設置委員会 協力
12月	北海道社会貢献賞受賞
平成27年 6月	霧多布湿原イメージオリジナルTシャツ販売
7月	HPより会費・寄付金クレジット決済システム導入
平成28年11月	閉校（琵琶瀬小学校）へ事務所移転 昭和61年霧多布湿原ファンクラブ設立より活動30周年記念式典を行う
平成29年 6月	ハイド作成 平成30年1月より町内3カ所に開設